

AI 特許訴訟

～米国で AI 特許訴訟が増加傾向に～

2021 年 1 月 8 日

河野特許事務所

所長弁理士 河野英仁

1.概要

米国及び中国を中心に AI 技術についての特許出願が急増しており、また様々なビジネスにおいて AI 技術の実装が進められている。

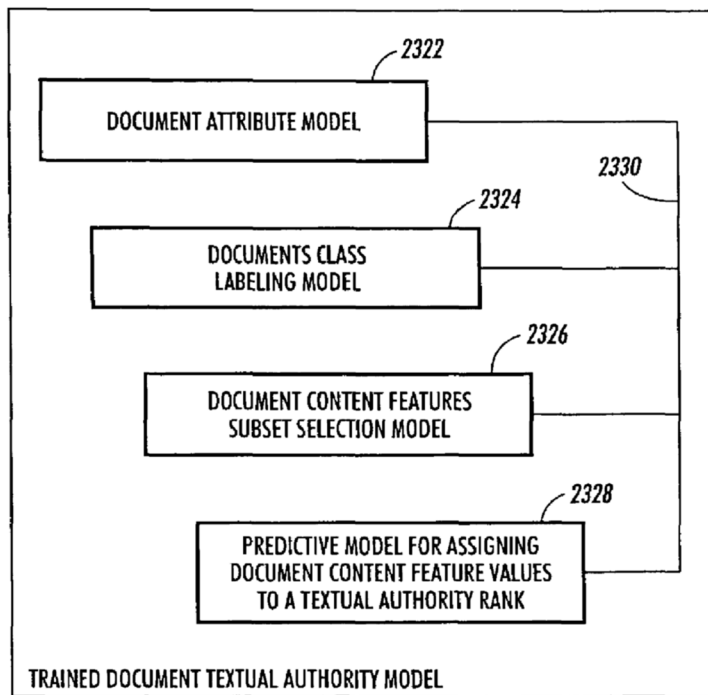
AI のビジネスへの実装が進むにつれて問題となるのが AI 特許に対する特許権侵害である。AI 特許出願の件数が急増し、また AI 技術の実装が進んでいる米国では AI 特許訴訟が各地で発生し始めている。

本稿では Xerox 社の研究組織である Palo Alto Research Center(PARC)社が、Facebook 社を投稿文書の信頼性を判断する AI 特許を侵害したとして、米国カリフォルニア州連邦地方裁判所に提訴した事件を解説する。

2.特許の内容

PARC は「大規模な異種ドキュメントコレクション内のドキュメントの信頼性の格付け、推定、および並べ替えのためのシステムと方法」と称する米国特許 US7167871 号 7 (871 特許) を所有している。871 特許は 2002 年 9 月 3 日に出願され、2007 年 1 月 23 日に登録された。

871 特許は文書コンテンツの特徴量を決定し、特徴量を機械学習モデルに入力することによって文書コンテンツの信頼性を判断する技術である。文書コンテンツに不正がないか、権威者によるものか等を機械学習モデルを学習させることによって判断する。



871 特許のクレーム 1 は以下のとおりである。

1. 複数の文書コンテンツ特徴を有する文書の権威性を決定するための方法であって、
 文書内のテキストコンテンツに基づいて、主題に関する情報を提供する文書の文書コンテンツ特徴値のセットを決定し、
 訓練された文書テキスト権威モデルを使用して、決定された文書コンテンツ特徴値のセットに基づいて、文書の権威性を決定し、
 ここで、権威性を決定することは、文書の信頼性を決定することを含み、信頼性は、文書で提供されるような情報が主題に関して信頼できるかどうかを示し、
 文書に関連して決定された権威性を出力する。

3. 訴訟の経緯

PARC は、Facebook のサーバ及びアプリが 871 特許、機械学習によりユーザのイベントへの応答を決定する「一般化されたコンテキストインテリジェンスプラットフォーム」と称する米国特許 US9208439、及び、その他の特許を侵害するとして米国カリフォルニア州連邦地方裁判所に提訴した。

訴状によれば、Facebook が、ソーシャルメディアプラットフォームとニュースフィードのコンテンツを評価する際に、機械学習を用いたツールを設計し、実装し、使用しているというものである¹。

¹ Facebook HP より 2021 年 1 月 1 日 <https://about.fb.com/news/2018/04/inside-feed->

Machine Learning, Fact-Checkers and the Fight Against False News

April 8, 2018

Dan Zigmond, Director of Analytics, News Feed



Facebook には、虚偽のニュース等が投稿されることがあり、人手でのチェックに代えて AI を用いたニュースの真偽判断が行われている。当該サービスに対する差し止めと損害賠償を求める特許権侵害訴訟が提起された。

4.AI 特許訴訟に対する備え

AI 技術についての特許出願件数は急増しており、後日成立する他社 AI 特許の侵害となるリスクは日に日に高まっているといえ、他社に対抗できる AI 特許を数多く構築しておくことが重要となる。AI 特許網を構築する上で重要なことは以下の 2 点である。

(1)競合他社よりも一歩早い AI ソリューションアイデアの権利化

現在のところ先行技術文献が少ないことから、機械学習分野における特許査定率は比較的高い。そのため、AI 技術を用いたソリューションアイデアについても比較的広い範囲で特許を取得しやすい状況にある。同領域で勝負する競合他社にこの AI ソリューションアイデアについて権利取得されると、大きなビジネス障害となる。

そのため、米国・中国企業を含めた競合他社に負けないよう早期に出願することが大事である。

(2)最新 AI 技術を取り込んだ AI 特許出願

画像処理、言語処理分野における AI の進化は目覚ましく、毎週のように新たな AI アルゴリズムに関する論文が発表されている。AI 関連の論文は Web サイト”arXiv”に投稿されており、第三者も自由に閲覧することができる。また Google、マイクロソフト等がオープンソースプログラムを公開している。

AI アルゴリズム自体の研究は Google 等により行われているが、この新規 AI アルゴリズムを自社ビジネス領域に適用できるアイデア・ソリューションを発明できれば、特許化のチャンスである。

新たな AI アルゴリズムを特定領域に用いた AI 特許出願は、先行技術が少ないため特許も取得しやすいといえよう。新たな AI 技術動向に関心を払い当該 AI 技術を利用した AI 特許網を構築していくことが重要である。社内には AI 技術にアンテナを張っている技術者がいるはずである。この技術者が発明する AI アイデアを素早く・適切に発掘し、特許化することが重要である。

以上